



1926

大正
十二
年四

(2)



六月

1. (火)

朝九時之所

寺鳴鉄達資料類、整理々

午後河上翠史、久々共持寺章大説事
先生當原治人史未訪、而西先生遺稿所置
、迄→周田之均内判批判遺稿今、迄
迄付之處、先手札、余は遺稿、手封川
之に付、寺大對手、寺セヨー原稿、或ル即
分、朝鏡川ハ、翠史十二月事了、森戸史
一、松井アリ寺大又、翠史、飯野連、類々
先生の如クサウレト迄事ナムタメラナナ
而四時過追行日々々

W. Webb, Industrial Democracy, ^主
正→西村

2. (水)

九時在所

Jahrbücher, N. 6 & S. 1523 Self、児童刊行文書類
ナム

吉田始元史の行方、日本原氏、相模ヲ申

六月

故川全川相達(並)一事情、逐事に付川
佐竹健造史、六月元日同会、江東枝友会(引会)
、既行(本事)に付事叶(氣) + 四付
吉川半蔵、伊上一品 + 事行(氣)、括(口意)
不得

3.(木)

朝之乞大改、乞行文皇帝(並)事八六四、四人
合而得之賜、予西了
川先手事(賜)就總起、整理行
國考文取虎來西
大改存地方事(賜)支山知(印)史半行事八六四
、既行(調)支事(賜)庚寅、支事(印)史行(明)日乙未
共慶、上逐事(印)史、行(福)周(印)史
行(主事)大川美太郎史(印)福(印)次(印)史
、賜(庚寅)、支事(印)史(印)相接(印)薄(印)次
始末可付(印)行(印)

正一等事務乞(印)、高田唐中(印)付(印)
萩原越吉、古史文書(内薄史病氣欠弊)。
二四、報告行(印)別、後事行(印)付(印)、=

六月

故川

正二等、次(印)西(印)

↑ J.F.N.S. 1920 Oct 19 の付(印)書付(印)

4.(金)

前八等事務所、正四等(過)事(印)整理支(印)
事務(印)處理(印)既(印)付(印)

正四等(過)事(印)付(印)

W.M. 稲(印)、半(印)行(印)

吉川大朝(印)事(印)、事(印)行(印)北(印)福(印)社(印)事
事(印)、次(印)、美(印)次(印)事(印)事(印)事(印)事(印)事(印)
事(印)、萩原(印)人(印)事(印)

大改付(印)、山(印)史(印)一(印)賜(印)事(印)事(印)、
通(印)知(印)

六月

5. (土)

1924年11月15日
Wubb校正、午後九時
西京路向到達太行山口過境、九省嘉市
署、晉州空局、北平、天津
軍械庫總長(李世光)報到、子河故鄉毫遼
三河縣一帶、北平

6. (日)

午前拂曉十時後晴、整十時
元月24、火車→奉天→大連→北平文聖生
行、二時、晚由川嘉云東支車上北向東四
朝敵匪報待七八十人、火車→朝敵高全
峰山土貨物八時半八千斤、安平以
南往、火車→北平→十時半過半時

六月

7. (月)

1924年11月16日
北平北洋大學、五十二學年秋期、延平、北平

8. (火)

朝七時、晚兵律軍械計主事南宗史來訪、軍械
調查室付導漢今、北平北洋大學、軍事情、北
平北洋大學、北平

九時、便吉元

太田敏足史近江竹中立第北平、北平大島秀
城史、支修護竹中立大津、行、北平北洋大學
一時足、北平北洋大學、北平北洋大學、

太政市立工革系校級信、日本重機史來訪工
場、北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學
意見、北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學

辛亥年、北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋
大學、北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學
北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學
北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學、北平北洋大學

六月

元一等委員會商討大政久而向，
始更之帶。
天王寺高士女學校四年生年款，件單現一~。
單付スルズ
大田區史之上，件報告ス
河面史加ノト一翻訳送達此件付印人社
ニテ、二級以上、壹行ナリ次第ニ二級以上、
印板、河面史、印人社、道、市、町、村、
スル、大島史、中道、川、
而、吉野村二級以上、是、若者付而上、
印板紙本、川、木、
夏祭り、慶祝、大日向北東立人、
都合、付決之、川、
高田史、天改而高鐵場今理事就任、件呈
記
竹、乙等吸氣、轉達、丙等吸氣
内有史、空、之完成期、付之、往
半付、川、付記了
元四時通計四元

六月

9.(水)

元大時去是八甲午高士女學校、表板紙、行
列車、辛愛以、主枝叶、相達心神戶女學校、佐古
聖心至院、神戶御立高女、高士科、總序、志望スル
ナヒ、事付、神明御前、ナスル、立人、又正平入
學、先立叶、豫付地主に付

ノーリ神戸、支那郵船及高鐵、支那、南洋、
此山航路、付中台最以、Cork & Son、行、青島、
支那、航路、立人、費用及時口、先種、依託
ス

此ノリ、神戸女校主、付、规划書、豐、
元一等田瓦ス

J. J. N. O. 1924 March - April 予、先
主士、付、今、候浦、走遠、投票率、失、失、記
道付ス

大島史、大田史、川、支那、氣力、街心、又河面
史印板紙本、支那、此ノリ、決議、中道、
車、立人、大改、慶祝、日時、了、河、義心、中道、
ノリ、付、中道、

六 月

10.(木)

前八時半去所

吉田敏次史川延江等ノ社主上、会見後、所ノ
別々稿類を一束、室ノ土、午(4→掛合)ヒル上
の書類スルヤハ相模又

郵便局郵便整理手帳ノ内

元二時退避計画毛

夕坡、卓次郎史來訪、坡延史川 Gray、書物ナ
レバ皆入ルト希望、中越ニハ小飯ナ、金八十八
セイ便室、片上ニテ、延喜ノ就寝一時向六十、
シテ去ル

ff. N.O. 1924 Mai. June 18

11.(金)

前九時去所書類半整理、設立

元三時退避大改ノ行十一令、之等岩井
シテ、調達ノ中心ニ付シ、七時前故ナ

大改府廳ノ先日出走アリ行河上、通報ニ
心知、而バ意欲ニ山野事務支一也、不注意、

六 月

送ル、午ノ往赴毛、王節清火事氏、達心毛
講演、口等傳行、通報ニ及ル

12.(土)

終ノ在毛講演至福ノ行、又高大行ノ至福
美術、見ス

13.(日)

正午、上又美術ノ見聞ノ以者、大
内、吉史一道、一高行、直接高大行ノ
稿類部、御、費、外ス

元2.06、矢串ノ大改ノ行ノ会堂、至
成行調査立候講演会、吉田幸一郎史、以
テ、草ノ内一時向ノ最代復辟制、失、得
度、口體、而文、院、院、二万九千、講
演後、吉田幸一郎史ノ記、又民衆半記若喜
入東大鳥居、而氣講演場、洋達ス、附

六月

14 (19)

地在氣就德其整紀一歲
元而時，庚辰丙未二年庚辰之月壬辰卦德
壬午往歲，又整氣庚辰年，大正十八年四整退
壬午行歲，整庚辰年，戊午、己未卦一歲十二
卦足，進入三時卯戌，乙未神元明晦乙人
八卦中央午，少盈元氣年，丙申位，壬午合德
丙寅、丙午、丙子、丙午

J. J. N.O July-Aug 1824 > R.

15. (火)

元人詩文選

整理：洪伟

元内蔵邦夫丈母室主行文

元升上良二史未行，要發乞不得，日吸十斗。

八三

山石養鵝史來的難處

第四等追討隊

J.-f. N.O. Sept. - Oct. 1924 3' R.

六 10

16. (, K)

J. f. N. O. Nov.-ly. 1824. Jan-26. 1825 2元
道口同人 Cork & Co. 27. 同上 4元

17(木)

左氏易言類整理 2

J. J. N. O. March-April 1925 371

元一時過半二中→元から少く足りない
常規民主化、方針、運動不足あり、貧困
率7%中向試験、成績3等以上、2時過
卒率2.2%

Wubb 素材集 1/1 (1) - 12

18. (会)

前八時半左右の間に資料室を出立
後四時過後再び戻る。整理以外高橋資料、中川
高橋室及資料室へ寄り付けてアリ

J.-F. N.O. May - April 1525 3117 R

六 月

19. (土)

午八時半吉野川堤、室内、整地計画大作業
終了
太田敏之史川延江、中島信義、西山良史等、
通院中、河内、近江、近畿、近畿、近畿
尾高、河内、近江、近畿、近畿、近畿、近畿
尾高、河内、近江、近畿、近畿、近畿、近畿
尾高、河内、近江、近畿、近畿、近畿、近畿

20. (日)

大掃除、午後復帰、午前、整地
午後、吉野川延江、中島信義、西山良史等、
河内、近江、近畿、近畿、近畿、近畿
J.F.N.O. 1925 Mai-Juni 月次

六 月

21. (月)

朝大時退吉野川延江、中島信義、西山良史等、
晴比古、太朝社、上野精一郎、大河原、
毛戸勝元、吉岡、太田敏之史川延江、近畿、
近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿
近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿
近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿

午後、吉野川延江、中島信義、西山良史等、近畿、近畿

J.F.N.O. 1925 Juli-Aug., Sept.-Okt. 月次

22. (火)

午八時半吉野川延江、中島信義、西山良史等、高
橋、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿
太田敏之史川延江、中島信義、西山良史等、
近畿、高橋、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿、近畿

六 月

諸君之帶，幸人丈・毛不”首次即史沫游
旅行，兩路，神人一走～人不至。
宣佈為觀氣，七月六日(19)刻，即為，決定
數件報送日本，並請四時故去。

增經支史一特：Gray Lecture on Human
Happiness，之後，又回史的申事，即“民以食
為生時，此應計大九、行十人而向食十
使窮，猶物主靈木，今乞之故能勝過
辛氣一失氣也。——大雨到，年十雨止。
待四月一風中止，遂一雨氣也。

甲子高女校長表甚天氏：即“辛氣以
神女之復高才，一丁人之辛也，十甲辛
之二，是觀氣處，乞，旨認十甲，持先此
細川史之丁人，保無二相處，一言後至
極收穫氣乞，外叶，依舊見之。

六 月

23.(水)

J. f. N.O. 1511 Nov.-ly 21 1926 Jan. 26 次八
午元春口道打吉=人而向食送史夫車，尋又
次=幸人史，引之而氣也。
今太田飯之史，“萬民吃氣，以火水+作農示
之，其狀，很急，次”

24.(木)

前，八時半，有雨
太田史，御見，次八
天王寺署，平田實史來訪，太田觀氣氣議，一受
之，研次，中加一太田善人也。
十時，即歸下相達氣，即，高田細川英
原沒有越古，清史也。
社氣事，元々氣也，止十方，即，氣中，記事
壁，人之，或部分，舊厚史執筆人之，
舊厚史，實耕室李寓，太田史，舊厚史，社
事，即，十太田史，及往，太田人之，太田史，
已，巴東縣動資料蒐集，人，高田史，立

六月

大林書、宣上元精工入斗，如川叟，宣之得下，
得，宣一印，乙卯十月心公十二時故人
元二時，晚起雨作

正辛枝の吐泣に胃癌瘻を記し申ひゆ
得一喜猪子医師附て此症を第一の
ナリキサチテルヤラナリ

25.(今)

西人林立，香報入籠。先知左元，就歸此年。

J. of R.S.S. 1924 Jan. 37-1

七歲等印一史來訪社會主義會長社莊之二十
人朴活之

正太郎は今朝までまだ起らなかった。

六 月

26 (±)

十一等韻上支：支之大改，^入上三，大抵是
東、^入高抵叶。高田慢是史夫妻之方，不在
前七，燈也。五等，^入四在三。

J. of R.S.S. 1924 March to 1926 Jan. 7
27-3 記文高書付

27.(一)

卷之三十一

午未 太极-行+ 太极-变物-生下卦行+ 行
火复 九五

以本足之史半才少辞专而

正全快去把朱了

28. (月)

今日在毛書狀了個十萬數之地，整理：36-
82)

Wiff · 校正 · 四卦八

安靜地說出來，可以不必對才及半紀元前

六月

晴天 15度 17度

29. (火)

前八時半支所

高田史及加川史の土曜協議、上轄役所発
止の様子の資料収集中、未駆動資料埋蔵、付
書沖電至二九及茨城越二史高山解一云
此(セトヨリ)付立解成大凡て 宇治高司
意(シテ)

高田史と委嘱し相談入事項等、
会計検査、引取付議会、

八木高次史及所長動封主行義計の
海外へ送、近日本部=付回復乞付移付、
之付

大林史と高田史と室支機、14時付議
ノ付

森山史、食敷付達、高田又共信史の
依頼ノ件、不在中、相談相手叶ひ付付
往、草稿ノ付、又中西次郎史と会談也
模様(付)

六月

高田史太政局書類協同理事會付等、
都合上付一斗運送時半叶委員会付高司
森山大林加川久面向、付史七等、

委員会付大島青此七花穂二史下段動清 21.2.2
張石川等、付史、山史、山野会 21.2.2
總合付大島青此七花穂又付、委員会、山史
事務室 21.2.2、且21.2.2、且21.2.2
元所理、付21.2.2

大田鉢史、農民地主、此農家改其調査、
ノ付21.2.2 No. 21.2.2付21.2.2
宇野山藏史の來意、21.2.2 mehr und 1号
動付、請此土地の Ricardian socialist 諸書一
收載、14.11.27高麗漢付本付21.2.2
付送、又21.2.2付議会、此軍配付一公增付14
ノ事項

河野高史、報酬付此付、13.11.16付高史
付21.2.2

所、署中休職付此付、13.11.16付高史付
在庫故古鹿原高沖四史付見、14.11.事項
並付21.2.2
加川史の川崎主張北方面一資料収集
ノ件、又21.2.2付故高沖二史、高司

六月

支東二依三工重方面一庵原史，吉田吉川、西山
御山御才向人不取故重法、厚勞治史、做
輕心商主高也七月一日庵朝一方向；浮乞之
流丸之行台止人之トス

乃ニ二峰還守乞、施徒ニ歟

元文時、收奉人河内役存工史トニ連ニ可
大改弓引動主核一行少山名役存、二名已之在
夕辰以七峰還、即得人。

先王報告中全人特ニ過駁四壁方領帶今章
移主食会、此以一等信主核所置場所、既足
報告、注解、木ノ諸史異議ナ

元亨、九、七月十旬一周向請喝乞、司、
人請仰年月日決之、請仰付就、方屬主
核、貢稅、人、支通費更他人民、皆主供仰、
夏稅人

第十二期、同請期、利用請仰付失之
一時向全人、此、他、就該、費、十時
故今兩乞人

六月

30.(水)

朝 9.07、矢車、大改、行、車中山童室史、即
前御幸授寄叶乞一个分、次瓦儿、二、一時打
却、此以一等信主核、物、次北斗之川、始トノ人門
条件付ナシ、支給ナラル、乞、支取ナリ

大朝社、下村史、翁、不在、日本堂、行、
3里、又至御土造二人、既足、請、一時乞人

七月

1.(木)

朝四時起伏 4.55 佐古装車中 芳徳利季
行飛行、朝行 10.00 カナヘ、ハセ、裏瓦 + 上達
4.27-7.0 改善下車駕前、草木 -> 朝氣行
2.7.40 是 10.45 食敷着車中、暉山支史、今又
大臣氏、微是、圓山 - 在、辛の吉等大至到
后、手) 到立五日午後食氣 - 大津の火ナリ

駕行直4.30飛行、行) 食敷叶長(宣)薩坂
皆史圓山送大臣云高接風上、限ナカニ
午前十一時行所内、氣鏡、又ノ以沒有支數史
工房内、原田昌平史、室内ノ見ル
一時、改畫壁の暉山支史至賀近處、接物ノ
圓山送大臣、是詳リ

後即卫更ノ次 宮二時還朝氣

原院近史一部役計、北川、資利保、東
豊勲官料、夏是又ノ皆史、出先3、林史、元
同様はれ又、又特原政一部史、代理心ナ
来ルル中國民報社方、内井中、太二七
令寺、地料中、要入才、付依先3

林史、山市金城史、付依先3

原院近史ノ一社員、身上付定ノ井處心
行ノ又、原史、某種工材欲望計使至原
計、付依先3

七月

カナヘ王時、坎行去 原田昌平史宅(芳毒
工場前)330m、叶上ノ今來所取ルノ外寒七
午前中の同達、ナメ不在 昌平史工坊の
一寸表ノ東山、付依先ノオク 駕度
半時向行) 駕の向史、分被 4.11 食敷
装車中大臣夫人、圓山一行加心の車
接物

車中扶田有志史の送付ナル施行書
蓋ノ後叶ナス 9.07 佐古看酒

2.(金)

朝斯便行、行 + 食氣空掛、清木心材
3.48-5.大役、行 + 直4.2.2.2.2.

始在支史、太田敏光史、端文、アルバーツ
No.2、トシテ4) 行 + 付銀九、金3連ナ付依先3

森川史の河江伊薩=史一選計却清元、
付銀叶ハ一經還了行ナル 向史、行計、行ス、
ルナス

基入口前内署役計局、森敷持支史ノ

七月

重午未九月未傍，酒席统计亦会集。
先列行劫酒，乃奉之大内。封八十八
元二时，吹退行酒。

3.(土)

数口来，日记及深才不^{トス}
宣会役去而元二时半所生今童心，大改社
会事今弓山正史，但津代用艺清起
程，便即到以意足，嗣心元七时是
向后一晚^{トス}

4.(日)

(1)~(2) 接除十世復辟土=消印

七月

5.(月)

勤務整理。正午前大改行于大朝、下村大
河、主内社十二月遣行。所至
ノ即日项目，既事，毕第^{トス}。

6.(火)

前九時半而始^ニ拂田拂田大内之丸室^{トス}
來着。北假東の夫人之座，氣味^{トス}足^{トス}中止。大島
史^{トス}介郎，以^{トス}士莊史^{トス}無趣半差支^{トス}下段
足^{トス}，由^{トス}。

下改，拂田拂田時会達，大内史^{トス}开八史^{トス}附
合，拂田拂田，内朝費付大臣代，接助^{トス}史^{トス}
拂田拂田^{トス}拂田拂田；拂田拂田事部或
拂田拂田，平民^{トス}及^{トス}拂田拂田持^{トス}。

大改故道局主事長井武治郎君主防夏翊婦人
遺^{トス}，婦人向^{トス}，遺^{トス}故道局主^{トス}封八

○ 元一時刈草会堂^{トス}研友会研友唱和會
^{トス}；此前三周前^{トス}行^{トス}同一門，纪念攝
影^{トス}，又此城今^{トス}同里夏節^{トス}向^{トス}前^{トス}
：裏面^{トス}行^{トス}，全墨^{トス}：書^{トス}，揮^{トス}。

七月

現今之勞者、高田森人並田指田大内加川久留向
大林、佐久間、

是日、山口義之鶴森六月卯山高松驛返報告。
大田政之志江村中主事、卦生、卦生、五月卯山
鳴時鳴時解任、通川村近、報告、向史、調
查隊軍事アマハセツ No. 2、トニテ行、草課、丸
山現、

即段計帳止、卦生ニ資料集、半聲動資料、蓮
華寺、

宇野山井丸五城經大史、卯山人、割合價値史
、ほがす人並行、運転事務、並、ほがす人、

labor defended、高松市所及細川史、佐藤、武
士の件報告

以上、報告、次テ即送=三八。

資料室主任：以有貴治史、班の史、資料、蓮
華寺整理、一月二十日、之、實行、蓮華寺、資
料室事務上、事務室：起居一名、贈貲、工
事現

本年度可動金盤中の労働運動：實況、事務
別列上件、又、部分、蓮華寺指田以降二
史、一月、到御事務、久留史、提案、九月
下決

七月

労働社会事務二金盤、金盤、付テハ特ニ慢重
ト即義、重ナル事下、ムニ、決定、大作社会事務
金盤ヲ既止、労働金盤、ニテテノ利行又
ハナ既に資料、汽車面、ニテ金盤ヲ包括ル
ニ、萬生整理スル、労働金盤、篇單主任
、毎年四月持ケテスル、即、四月、毎年協
議、決定スル、東京、篇單主任、森代史
、篇單主任、篇單神助、所内、北川村
吉英至二史、外、成、細川、報酬支テタヒ、
向史、希望的条件、實現、金盤篇單主任、森
代史、外、高田指田二史、出来

資料室委員會、別ト、原別トシテハ、金盤委員會、
篇單主任、二月、是月、最前、委員、森
代史、北川、篇單主任、

大正七年、東京、資料、蓮華寺整理委員會、
設立細川高田二史、之、佐藤、九月、
所、現行、事務、書類物、二枚以上、印紙、所、
若者ト折手、九月、一月、

軍械業等、八工事、北川、調查、改行、增加
却吸、件、金盤、事務、二月、向史、向史、九月、
一月、

○生下在中所長代理、墨、高田指田二史、

七月

嘱咐事項

先生不在中、机件の運営易し、買入へ付く、
蓬之へ久而向處、依嘱事項決定、資料へ
大体既前通、資料室へ蓬之又付く
易書、今類中之來空入へ付く、内在支拂
外帶在中、如何整理、充份ルタクト支拂前
整へオリニ叶候購入、今付テハ吾友其國
以旨類、専人付く決定

郵便局制へ之、所貰、適用スル方針以
テ調査、過付ルニ決定、高田大内二史、調
査依嘱、又財源ノ所、印税收入、以テ
元々付ルニ付く

本年度改築、計画、大体本年度、端
整へルニ、重復等、増築、適度支拂マテ
高田、机件高田史上現候至寧、作成ルニ
決定

本年都議院、会計制度改築案付、既制定
案研議、着手制度改築、當人窓室へラニ
自序、乞う付く

○高田在支拂主中、調查所事項付く
太夏、依嘱決定、上づルニ、又自方、在
外中、購入スル易書資料類、之付依嘱

七月

注意マサキと希望ニオク

机件、大内史、同人社、近況、其役物
Stock リ付報告アリ、元主時過
以上、櫻谷、食堂、野田金、
支拂、河村記、会食又奉賀、外
事津越吉英至春、内有收音、大内史、
諸矣等余

七時、飯更、會議室、事務、(主)執筆
又主教小次、執筆及ばん小次、(主)執筆
八月中亞馬摩停物ト決定、大内指揮二史、協定
一人、執筆、主の一人、到年後化勘付、入地、皆
支拂ル、執筆ルナリ

カナ等、收穫金、所見又

大内史、Maro-Engels Institute 規定、翻訳、
同史夫人、兄弟又、又、他、依申方、報付
固守文起居、出事、即日史、原田沼平史、依申
善事工坊欲望、便、瓦計、費

七月

7.(火)

地区在地行政被訪了医2

元一時過十音村支一史來訪談笑時午二時

返辞去サル

午三時、吹山岸朝章史十五・十八次女内侍來
訪次女十九時能立寺主御・ノ保謹中(二)、(三)
五、(四)下改アーティカル一泊サル

夕星端田史来訪朝達又中下高代神助位
ニヨリ平野、人物桜用達アリ又其、候神若、一
ノノ飯川全八原則トニテ贊成御・高時(四)
ニ仕事、(五)飯川・御八・人物平力次テ承
諾の室(半)付サル、可ナハキト達ノ十一時、
改辞去サル

明元加

保健衛生課)連合の(連合支節)有無3
電報の向会日來一之節の(連合)旨通覽
以改善、支ル外却便於金全額、掛失了

七月

8.(木)

山岸朝章史初用達、及午后晚同伴四車、飯
川事(二)御・地及靴下>購、心ナ工産トス
十時去西 駅後観覽

以在史一房同手板井上良二史が根外生募
集、企トシタハ・毒気会=ハジミニテナリトモ
安吉ルハ・ナ高注意 ウケナシ依託ス

高田史一過口毒川史ト高書立、阿江仰在
史、身上・叶相達シトコトテ既に達解ラ得ナリ、
又乞計毒氣設置、率ナ度ニ次、毒気会ニ
相達スノ・決ス

毒川史、現ナニ大改府工章交渉会、若松
長委史來訪調査、依託アリ封ハ

日本農民連合、安藤四郎東来訪吹合ト
同ビノ八月、夏期講習会開催計画
依託アリ封ハ、此ニヨリ種子運動教育会、
補助金五十四、希望アリ全八回会、乞計狀
態上ムカシカニテ相達スヘシ又何トカヘ
而ヒヤ逃事ス、講師トニテ毒川史接致高
達、迄川史接文書カツカ高達ス

民衆計画、嘉入史来訪方物令送回
停待、宣ル意見アガメル 宣ヒナシル件シテ

七月

太田政次忠率行、改延江村伊社氏(ト今
見)、主七・大津・朴仁世、以事功、勞・ノ・八
既退、延一九年・延、鑑・山・賀・次
口志、調支船軍、アリビー、ト・リ・イ・ミ・付
向志、得・早・高・、加・革・正、草・想・木・ナ・ツ
立・十・地、宣・スル・銀・克、九・少・夕・西・提
セ・ア・ク・史、上・世、主・シ・ハ・東・所・合・ニ・通
至・高・、統・代・又・、今・鑑・利・用・21・ガ・ア・レ・ヘ・キ
萬・月・限・ナ・ジ・ハ・銀・公・合
往・心・合・文・時、改・詩・カ・ル

吉野(土平林英夫居主)主・望・年・三・中、
二・弓・在・主・中・十・八・久、都・合・一・七・月・一・口・遇・主・心
心・ゆ・シ・文・向・道・水・上、佐・牛・川・一・亭・二・三・十
合・セ・行・同・情、是・二・十・九

元・天・時・遇・退・計・内・毛・又

八・木・高・次・忠・奉・日・午・鹿・島・丸・改・改・稅
覽・裝・送・又

七月

9.(金)

前・九・時・吉・西

内・海・史、太・田・政・次・忠・鑑・利・用・21・No.2・ト
リ・リ・イ・付・史、至・高・飯・坂・行・之・往・又、又・河・野
泰・史、敷・砂・、旅・費・算・ト・二・万・立・四・十・人
叶・相・候・又

朝・達・類・矣・換

元・天・時・遇・退・計・内・毛・又

高・田・博・史、主・御・社・氣・事・蒙・場・会・遭・召・會

備・仰・仰・机・件・寺・門・行・十・付・之・共・又

宇・野・川・井・史、利・金・便・代・史、一・亨・翻・次・往
而・昇・得・村・外・局・三・狀・又・向・主・事・一・手・狀・十・五
・來・毛・欲・定・局・中・ニ・ヤ・ル

主・土・復・一・二・口・次・常・旨・ト・第一・部・令・足・候・補
方・ト・シ・失・行・史・地・川・拔・空・道・又

七月

10. (土)

午十時退、汽車～神戸～行 10時半船氣社
大阪高船氣社 ～、C.R.K. 社～重、青島航路
上海香港向航路 改叫航路、午前汽又
リ～叫観車、午大阪、午行 五二時 蓮港東之空
四丁目住友倉庫附近～至八二時半蓮物
運行、川大阪蓮港、陸運後リテナリ「ランナ」
～港内リ一巡、午四時半、陸運リ橋
得心 大阪都市協会、便、3合堂、半ノ合又
～數十名 橋橋～隨意退散 午尾～3.

晴天

七月

11. (日)

午、午大掃除 13時復唱、午前、焚竹
午一時、坎窪川嘉木史夫事來訪民社
母の史～北川十枝（女、贈物）持去未免、
善礼～未ターナルニ笑美時余珍吉カル
午四時、坎窪十付 神戸～行 14時
作作、ウツ辰シソーマカル 貨物ラ～
六時雨毛々

12. (月)

午口左毛数口来、日地、地、地 14時事務、处理又
岡山復史～女姓、八工寺酒造改計書收、14時
半14時、要談、リ決定、旨面知
平支托、史～女姓、元局級官今リの車船汽船會
期賃唱今～至十四時可能、有七三才之又
ハル一音歌女車、上八道付アリ時后中心送ル
事半瓦急、完熟工付渡以上、半ル又一部
貨收、同様装熟工付渡今、利人泥布ニ
熟工瓦ル、留毛々

七月

13.(大)

事及一島勢々大旨下りルル、テ吉ニラ去る +
一時所一行

方田史川土壁、相模二三越高東山山へ旅行、
這次以山口福岡瀬島四山地方の半壁
動資料叢書方、出来ルルニル旨記アリ草退
森川史川河江史中壁心外は地盤研究等、
止マ吉來得ベリハ事務室、草原史以、行ナリ
希望、マテナリハ半壁スハ急ナ、又内直志
時社会主義文献調査、ナリ此今本日草原
一書撰セリハ報せアリ草退

后一時委員会方田幸元久向翻川大林、
物史古傳、一

安部城一總史、辛酉ノ年、大日本人民草場ヲ
ノリ向史、所ノリ、辛酉ノ年人民草場建境、事ハ見
ルル(然)向人社、辛酉ノ年人民草場ノリ有、此平
トルズ(然)是向人社ノリ辛酉ノ年可見保
持收物アル草場、其ノ之を辛酉ノ年
ノ時草場ノリ決定

合計事後ノ定半壁代既ノ神佐ノ後算
、安施元ノ合計、復支、吉三郎、草了北村
可夫、委員会森人史、私窓草退ル

七月

方田史、主若社今事業講習会講師森人
史、農民吧夏期講習会講師大林史、
東京帝大也、トメル講習会講師、ナシ想
城古史内志史地方考派、件事役草退
細川史私用以、一週官東京、吉瀬、ナシ想
想一也、御、ソニ東京方面、オル半壁動
資料叢書、ナシ想田史ナリ相模、上月二十日
以内以過ナリ神助始化ルハ勿可、
現室アリ草退ス

山名義鶴史、山井高麗木、行者也
鳥居資料類利用、便立、上月二十日、支度
ナテ二時半、吹散会

章上河川史の高麗資料叢書、必要ナシハ勿
意ナリトス、又森人史の資料分類件正室
ナ提ナリ、次回高麗ナリトス

会以森人史上申而改即史、件相模又森人
史、ナニノ年鑑編草、月二十日、報所、
数名、皆時的助手、限數而因行文之程甚
、元、心ナリ、紙川大林、中西史、計ナリ外ナリ
決ニ森人史近付向史、意支、傳ナリトス
元二時半、吹退叶得矣

七八

14 (24)

六、在反書數了整塊地塊後，再一次進行計
畫方案。

失作史有文美夫史大島事始史一失失・大田敏
是史・身上一夏山人配處・財心近江守・朴生・喜以
大改行動主城今也成德報先・此日毒丸史
則為而一早・上井土院二史・近道了

一部之半變一復之半以竟極又一部之半
前起承了

15.(木)

前九等去而

高田史二著：会計委員設置件、鶯津史一著：行年譜（六十）

亨申史一張心于籍賜本，下付致，用虎
，依打。

内蔵史ト九月二十日吉辰、北野丸・三日行
ス一キトハ同史、特ニ所立ニ家ト同等、申込
ム一キコトハ便心アフ、又焉喜、分數ヲ過メオカ
ルキコト、而至中、御吉元院事政ニ就ケル

七月

新任者に就く事務官の選定は、内閣の内閣官房が行う。内閣官房は、内閣総理大臣の指揮監督下で、内閣の運営を統括する機関である。内閣官房は、内閣の内閣官房長官の指揮監督下で、内閣の運営を統括する機関である。

委空气及湿气，逐退决计。報告
暑中休吸吸，七月二十一日，八月二十日
午时，休吸中一至月吸古丽而便
幼土整理 头型十八元，高四丈一仙九尺
斗 古丽，顺倚人省立向以十品元，斗
平林美夫虎八寸人，支望酒的口唇吉言勤
勤，一月又斗一决定

伊藤行江二史・件ニ就クハ慢重ニ加
額ニ伊藤史ハ本月限り退所 ハルハコトヒ
行江史ハ高田春川ニ史ヲ高田史ヘシキオ、
妻志乃子ニ退所、上向史、從主3室向、才
愛ニテ卒章スル方針、可ル、可ハズキヲ
懇請スルコトス

收存支川报案，资料室资料用報作裝
配付，事隔月余（二月）>要以故委會
之處處人

實科產生一至二東京事務所一報長入→
先由中央銀行、實行不便故而止。單

七 月

重慶十八省邦、蓮生了東京一休半 21-22-23
后收存史、報告川軍退入
川江口時、吹此川駛往四等散人
而24日退而回又
宣德史東京の電報を明朝方見、局中
に來

16. (金)

朝入時、吹車門付方見、先づ御室御室及付
萬十年一行半吹此川大口奉人私牛章半克
ノ寄頭心、川江御元ニテ、Shireland 善張^ト道
ノテ二十世祖帝、寶成大、Cork 社一丁目上
○海馬車童向北野九一等御室二仰、三、内
御室、川江御室御室向特別工事御室一
仰、御室御室御室御室御室御室御室御室
二、川江御室御室御室御室御室御室御室
御室御室御室御室御室御室御室御室御室
御室御室、御室御室御室御室御室御室御室
御室御室、御室御室御室御室御室御室御室
御室御室、御室御室御室御室御室御室御室
夕方車十共、大段歌一、七八時宣地川走史

七 月

夫妻久義郎君 駆尚、川江十日 8.54、矢車川
往去、川江 大口駕使急行川江

17. (土)

午前四時半迄、田村市郎丸未行 King、飯
糸方傳論水利充翻訳、元々持人民人未上法
二七日、正午方翻訳の持人民人未上法
御品ニテ全川小町丸一其共御車御車御車御車
御車御車御車御車御車御車御車御車御車御車
御車御車御車御車御車御車御車御車御車御車

七月

18.(10)

午前十一時、JR 宇都妻駅にて通勤バスへ乗
り、午後二時半に到着。JR 明治八幡中央
駅、左側にソーリー工場へ立ち寄り、買物等一
回目、JR 四条河

午後一時四十分頃、JR 四条河駅

宇都妻 - Webb 部門にて、専門課題を複数枚
購入後、帰宅

七月

19.(11)

朝7:28、汽車で宇都妻駅 - 義奈倉敷駅へ向か
う。荒牧駅 - 停車場へ足進み
午大時 大改一行手口銀支社へ出向か
り、講演会開催、午後半は足進み、JR 五条河駅、JR 五
条河駅

JR 五条河駅

20.(12)

午九時三十分

鉄道史の書類報告会、JR 東京支社事務
室、横浜駅にて、Webb 部門、担当者、他約10人
JR 東京支社事務室にて開催、JR 東京支社事務室にて
内藤赳吉氏の堂本訪問の映像撮影にて内藤
赳吉の子孫と接見会、立替り料金の返却
返済等の手続が終了後、石川、岸井、岸井貴一、文
化庁代表

内藤赳吉の歴史学会主催、講演会

七 月

アリ全人を連れておけ

元一時叫垂露金，高田森人久而向之史文帶加口
大林二史旅行久帶。——

章太炎著「新黨書」主任者社會次序史の中
故アーリーは社会民主主義書籍の目録に記載
され、日本では東洋文庫、大正から昭和初期に
かけて上巻「選事スルコムズ」

故古史记及董生等之资料中计，记事半壁间、夏桀孙商丘人所，内部以商丘一至商丘城一线为轴，商丘—商丘西南外：武侯城也。

資料室月報 一月三日、新築、改修の件、
森下資料室委員会、中古、卓球台
資料室の整理と材料、年鑑掲載若く側
一月三日、森下史、中古、卓球

而一来者，易得资料，事功的阶级、财产史
“三”中史（以本史、私史等二类合之）八事功
立役、立功六类，上二类又以财产

4、铝叶市场供应表：大体厚差：决定
与铝箔需求量的增加，与铝箔的
范围内，对于更适宜，建议、征求以
决定

七 月

四月二時，收故人

秦代史中而次郎史，一批口誦向，略軍
了皆以之一中而史之所，事情之叫待商事一
多以意風+」

元四時通可兩年又

21. (水)

地政局 J.R.S.S. 1526 March 1st; J.J. M.O.
Jiangxi April 1526, Fuzhou News 1524 Jan.-1526
June 九月廿四日書地契
筠田民屯史一女共一女夫李大吉社易書三份，中華
一卷，江西同上，立向之子六人

小糸七二平太一七岁 四村市平太 手人八郎
第一回連続譜

山奇革次年更毋童是今來朝與：在「因
左，今次來訪一泊也」

七月

22. (木)

前九時之所

報文數互換

十一時半川崎等、事務室へ向ひ、高田鷹津
 故吉幸の内蔵甚平洋海、若丸三井、一
 長官、松川味之、報長に世の中事務、宣伝
 会議、内閣文庫、事務室、松川書類、取
 扱方、大典御用紙、以降、資料類、交付、
 収集、上記記入、
 事務室、立川、資料室、取扱、整理
 事務室、通じて是迄、
 報文、事務室、是迄、
 事務室、通じて是迄、
 川崎、内閣文庫、
 蓬田竹川書目録、互換、
 故吉幸の Wulf 和訳、一部、上級
 元四時遅延取扱文

七月

23. (金)

朝山幸之郎史事室山根一向、立川
 前九時之所、蓬田竹川書目録、地圖、
 検定大典御用紙

Schmalers Jahrbuch の Schmalers, Wulf 等
 既往件文、整理、次第
 元四時遅延取扱文

24. (土)

此日左氏數回來、口記、便り、元八報文、
 处理、可燃物、トトコ

25. (日)

13時、内閣文庫、書類、複数、
 大臣府顧問、是迄、全般、施行委員会下付
 事務、書式、便り
 Wulf 和訳、次第

七 月

26. (月)

前九時半の 壱平史へ様心^レ大政府應=外國流行委狀下は社^レ提書ス

午十時過還所 大朝小下村史^レ御^レ社心
同道^レ十^レ日

午早五時過仙台、石平萬虎來訪 欲前会
意^レ事^レ付行^レ付^レ御^レ神戸^レ明海八行^レ
中央亭^レ行^レ午尾^レ坐^レ心^レ入^レ鑑美^レ九時往
吉^レ与^レ神^レ行^レ

27. (火)

前九時半の

壹平史^レ此^レ、其^レ心^レ向不備^レ、某^レ八^レ行^レ九
露^レ而入^レ、一^レ更^レ、正^レ是^レ一^レ人^レ此^レ大^レ事^レ、其^レ十^レ

高田史^レ夏休中^レ事務打合^レ行^レ、研^レ氣^レ所望^レ、
坐^レ城古史^レ、行^レ川^レ此^レ是^レ此^レ大^レ林史^レ、美^レ込^レ
、賴山^レ今月限^レ此^レ欲^レ之^レ過所^レ、乞^レ半^レ一^レ
易^レ事^レ仰^レ在^レ史^レ、請^レ行^レ心^レ但^レ、半^レ月半^レ行^レ可^レ
行^レ半^レ一^レ更^レ八^レ月就^レ成^レ行^レ高^レ一^レ月行^レ

七 月

27. (火)

午一時過還所、大車^レ平松心^レ神戸^レ=行^レ里^レ四^レ卫^レ變化^レ燒^レ增^レ、在^レ心^レ更^レ山^レ幸^レ、
二^レ日^レ=密^レ國領事^レ敏^レ、行^レ半^レ春^レ夏^レ、改^レ密^レ而^レ入^レ、
、旅^レ青^レ喜^レ江^レ、其^レ向^レ、入^レ四^レ前^レ、改^レ叫^レ、^レ行^レ十^レ
行^レ者^レ、其^レ夕^レ星^レ而^レ天^レ、
就^レ心^レ滿^レ之^レ達^レ

28. (水)

午^レ左^レ在^レ Well、御^レ設^レ校^レ正^レ→^レ
十^レ次^レ、端^レ立^レ獨^レ立^レ、難^レ立^レ十^レ一^レ壇^レ4

29. (木)

前八時過^レ古^レ

壹平史^レ依^レ大^レ政^レ府^レ應^レ、行^レ之^レ狀^レ下^レ
付^レ車^レ行^レ

高^レ唐^レ室^レ在^レ伊^レ有^レ史^レ八^レ、也^レ以^レ春^レ川^レ史^レナ^レ物^レ
該^レ、上^レ个^レ月^レ未^レ立^レ、二^レ月^レ分^レ予^レ送^レ解^レ傷^レス

七 月

21-2

就绪，处现室内，乞付十天
仁而待，俟大禹秀施来所，如是日，即令
此项事项中向人往宣件事改了读心
至时退退并附录

30. (全)

此の左毛喰叶へ行第又
夕大氣社一丸朱村錢其時金請乞カル

31. (±)

左毛 Webb 部門文字

少而至時，比大島秀雄來訪，信老歌前原
壹、傳（食事）加（酒）使中向史氣里，
性老，此時叶袁火向川全整成（）九
時有後向史明（）四年，著

八 同

f_n(x)

今朝福田徳之丸夫妻改姓の賀等九つ以
朝 国へ朝立時、起手丸・妻上士共二人共
： 6.05 佐藤家元の神戸屋・行・源の死大
時 入軍 夫妻、元室八田朝門・政・智・達
・義・秀・喜・子・良・内・左・右・馬・平・
義・代・時・行・前・主・都・政・秀・上・金・
之・河・上・節・史・行・の・「政治」運動一失、主・行・
・確・退・法・津・解・得、貴・寺・高・家・の・史・仕・事
・復・化・過・大・行・主・都・行・病・人、主・行・由・行・
・一・時・當・計・行・所・主・次・久・保・七・時・史・行・
・永・惺・一・手・向・貢・八・惺・一・手・三・九・(四・九)・星・三・九
・四・九・行・中・十・又・利・行・所・主・五・四・二・主・都・荒・
・土・改・夷・九・左・總・大・貢・又

不左中以指史事行去而取之史，至稿订正。
今附心所加

八月

2. (月)

午 2.08. 民事へ神戸へ是れ、八月、行ナ草
ト>夏木大山本通四丁目鳥羽旅館、福田史
夫妻3歳+25年後笑辞去市中へ考テ大
仰制室=第2足3達文(次=礼土産)ル^一九
富士縁洋服却地+ワセヤモビ地、笑聲^ニ等事
内充々

3. (火)

午+1時過福田史夫妻会見二人来3分^{アハ}
午の後笑、次二時過喜多地へ会見大人
連以電車→青蘋園→之以自転車→ニ甲
若葉園、長青樓、松江入浴、及食事後
笑山上、临沂易高掛、云々寺山之下、
喜多地へ酒呑以全、福田史夫行其事、
杞人→大段、其行つや、行、主人、対一
史車召萬太郎史口氣行、主配行隼令計、
草丸川歎^クニ十時半辞心福田史夫宣以
八、送^ル車夫史夫其、内充^シ先^ル十二時归

八月

水 2.07. 郡支の主人と面談、牛牧選中
町川市田村市郡史一報^ア

4. (水)

就労整理

夕八時過宇都夫妻会見、立木元
義郎中川、文京へ急^シ示^スリカ^ルト^{アハ}

八月

5. (木)

一部此山東耳南行、勢二十七度五分+
午前吹瓶前、山東度、速一升十度半度+
後度較差、是、暫時切入速度、是

午後四度正、始入山脈海邊、行半小時
之山脈、是、尚快、切入半度

夕至鹽亭東方旅店、宿于天王寺署
= 制裁化山地事項= 手掌子母飯+
明朝去西双版纳

車子ト向神元=買物、行、是、
Rudra 来、鳴山+養殖販珠一日(16日)
別、八日(11月20)、次々

八月

6. (金)

前入時去西二十分、頃天王寺署
等係送正男史來山旅店、大致二十十分
・車一升八度、是、一升半度、是、由
薩東山、進行ヒラ佳、是、速一升度、是
度一升半度、是、
ノーリニ越加行+ 漢改年付高、叶足廻、
后四時四度

太田丸至鷹、收存丸手許、書 + 七日
= 13日

7. (土)

太田丸原稿+整一アラベス、No.2 トシテ收
2~3日人社一連

統合道

一部夕二十八度、是熱、但都山中未見、
此後東川腹痛、加深、乃至大約一

八月

8.(10)

午前銀行局、中川支長吏事務所回車二郎
支拂手外事科調査結果表案、元ハ
該係奉時向金辞去ル

Wulf 見ル

リ奉手外事科調査結果表案、支拂坐時
金辞去ル

9.(11)

Wulf 見ル

一齊此日見勢計入過年、再入施口證布
勢下ル従心今朝ハ已吐又或ハ細生ハニツ
タハニシテナ思ヒ臺、增一皆才医師ソシ、才
事次高挑取支→社正取→地心ナムト之ル
却ハ楚干勢一下ハ静川ル

辰四時、以改後見歴史大作航行の内陸
主計ナムト之處、以考ル

吉田守成火頭人高田謙也考付記ス

改古考ル Wulf 開次、送リ車ルハ之、ノ御文

、高少、送リ他ハ空トナムト之

八月

10.(12)

Wulf 見ル

一島平勢、復又記付ル

11.(13)

辰四時、改松田車二郎支拂手外事科調査報告
今一月既、逐次之旨、一月十日余付調査結果表案
付意見、達ハス、但未取可食量、ノ辰四時
ニシテガラ達矣、七時退台被

山寺志郎取引ナリ十三二時既到可能、旨通
知報ルル、十一月二十日再付スルトス

午前一部、往々山寺連絡、行方不明ナリ、改
暦ナシケルルトス

八月

12.(木)

下村支の御来訪にて、上返事到達心外故朝
八時退之を九時、吃上甲海南莊。口更に387回
陞官勅書会奉の主令今奉公長々全、子在中成
親王草送御記、元式(6)太朝、御事令、草送
得上へ御先サル・カス 次=大改官勅書拉
ト、近明に改種令貰外モ起立奉、先づ此改
トニ式一報ナリ此議ルノ久義へ遠近トハ古
ト工野精一夫相談、上返事又ヒト、カツリ用達
ルヒ下村人相談、定一時向計、ニヨク去
御先ス

宇治史明朝之聚四仙、庚辰比予近而
時吹川夫喜義高平、喜及十世二人、仲ヒ
儀ニ、上車ソレ、自駕車來塔口の歩ニ寧
而山ナアル、行ナ是ル、次上車凡經八日八
二時二十分、八時死、少早食童心、夕辰ニ
以下山前諸様、神产节、之ニ宇治史、
土氣物ト、買成ト九時退御先ス

八月

13.(金)

朝市地史支東京、壁テ御台一回ルカス
8.05 佐吉歎完車ト共、大改厥、更道ル 9.05
特急ヒ古立、車ヒカツル所、全ノ研成計
行ナ松原史、還又在ツシ依、松原史支
、11月、鹿原史、御性亨(6)依託オナケル、
用達ヒ午後四毛ス

以有史未訪中ナリ寺ノ上庄内筋、迄ナリ
ノ辰以碑古カ一 塚江内一志野作造ニ
及太朝虎屋田敬四郎史、研介入譲漢、
依託、12月11日

八 月

14. (土)

朝日左毛御津半筋。善又神戸、おじけ^{アマ}
ニテシ一平中^{ヒタチ}。
午后神戸高高御子是一丸筋^{ヒタチ}。十轉高
高、南亮^{アキラ}即 史事^{シジ}アル人^{ヒト}向^{むか}数^{カウ}。是^{シテ}
ル意^{シテ}、走^{ハシ}後^{アフタ}時^ヒ余^ハ轉^{ハシ}去^ル。
リ七時還^{カム}山^{アマツ}吉^{ヨシ}市^シ北^{ヒタチ}明^{アキラ}御^{ミササギ}、
引^{ハシ}者^{ハシナガ}又大^{アマツ}海^シ、手入^{ハシナガ}里地^{リチ}村^{ムラ}。由^{ハシ}今^{ヒタチ}
往^{カム}事^{ハシナガ}、特別^{アマツ}費用^{ハシナガ}、請求^{ハシナガ}。午^{ヒタチ}与^{ハシナガ}
走^{ハシ}而^{ハシナガ}、示^{ハシナガ}是^{シテ}八十五四月丰橋^{ヒタチ}。
十七數^{カウ}又八月^{ヒタチ}高^{アマツ}數^{カウ}向^{むか}人^{ヒト}、
地東^{アマツ}土^{アマツ}心^{アマツ}五^{ヒタチ}、工^{ハシナガ}一^{ヒタチ}尺^{ヒタチ}四^{ヒタチ}十^{ヒタチ}分^{ヒタチ}四^{ヒタチ}可^{ハシナガ}
川^{ハシナガ}走^{ハシ}八月^{ヒタチ}分^{ヒタチ}示^{ハシナガ}走^{ハシ}一^{ヒタチ}尺^{ヒタチ}四^{ヒタチ}分^{ヒタチ}、
走^{ハシ}一^{ヒタチ}尺^{ヒタチ}四^{ヒタチ}走^{ハシ}。
リハシ事^{ハシナガ}十^{ヒタチ}速^{ハシナガ}行^{ハシ}影^{ヒタチ}。行^{ハシ}半^{ヒタチ}第^{ヒタチ}八^{ヒタチ}、
里地^{リチ}歸^{ハシ}。

細室^{アマツ}二^{ヒタチ}娘^{アマツ}史^シの農民^{アマツ}組合^{アマツ}夏^{アマツ}期^{アマツ}習^{アマツ}氣^{アマツ}、
一^{ヒタチ}分^{ヒタチ}動^{アマツ}級^{アマツ}育^{アマツ}氣^{アマツ}、神^{アマツ}助^{アマツ}氣^{アマツ}五^{ヒタチ}十^{ヒタチ}為^{アマツ}替^{アマツ}
→ 送^{ハシ}來^{ハシ}。細室^{アマツ}農民^{アマツ}組合^{アマツ}安藤^{アマツ}田^{アマツ}君^{アマツ}
一^{ヒタチ}贈^{ハシ}送^{ハシ}。

八 月

15. (日)

朝至時半^{ヒタチ}之^{ハシナガ}、七時吹^{ハシ}御^{ミササギ}。九^{ヒタチ}
寫^{ハシ}力^{アマツ}一^{ヒタチ}人^{ヒト}之^{ハシナガ}。荷物^{アマツ}運^{ハシ}人^{ヒト}示^{ハシナガ}處^{アマツ}
掛^{ハシ}。おじけ^{アマツ}。鹿至史^シ九時^{ヒタチ}、吹^{ハシ}來^{ハシ}。八^{ヒタチ}
桂木室^{アマツ}北^{アマツ}。江事^シ。札^{アマツ}故^{アマツ}荷物^{アマツ}坐敷^{アマツ}、通^{ハシ}
以^{ハシナガ}止^{ハシナガ}。元^{アマツ}二^{ヒタチ}時^{ヒタチ}、吹^{ハシ}運^{ハシ}七^{ヒタチ}人^{ヒト}之^{ハシナガ}
送^{ハシ}。鹿至史^シ、少^{アマツ}行^{ハシ}、整^{アマツ}足^{アマツ}。瓦掛^{アマツ}
大^{アマツ}秋^{アマツ}方^{アマツ}、从^{アマツ}見^{ハシ}立^{アマツ}、送^{ハシ}。鹿至史^シ
少^{アマツ}行^{ハシ}。

在^{アマツ}處^{アマツ}、普^{アマツ}情^{アマツ}十分^{アマツ}便利^{アマツ}、幸^{アマツ}而^{アマツ}是^{シテ}上^{アマツ}二^{ヒタチ}月^{ヒタチ}
而^{アマツ}被^{ハシナガ}示^{ハシナガ}、住^{ハシナガ}此^{アマツ}地^{アマツ}。然^{アマツ}而^{アマツ}此^{アマツ}處^{アマツ}
心^{アマツ}地^{アマツ}立^{アマツ}。

午后山^{アマツ}吉^{ヨシ}市^シ北^{ヒタチ}接^{ハシ}、來^{ハシ}。

16. (月)

朝大^{アマツ}時^{ヒタチ}吹^{ハシ}來^{ハシ}。九^{ヒタチ}鹿至史^シ、手^{ハシ}持^{ハシ}、下^{アマツ}行^{ハシ}
大^{アマツ}手^{アマツ}程^{アマツ}事^シ少^{アマツ}行^{ハシ}。九^{ヒタチ}史^シ四^{ヒタチ}還^{ハシ}去^ル。
四^{ヒタチ}部^{アマツ}(即^{アマツ}主^{アマツ})、二^{ヒタチ}氣^{アマツ}壤^{アマツ}來^{ハシ}。

八月

17.(火)

朝来川岸付に花事、午十時、汽車：
大坂→行幸車中益川館一部支一會、御史：自動
車：道江→越→至八重井水屋玄室入→新
宿、入更入→御用達トシ内毛ス

18.(水)

室内、気付、トニ漸く常陸トナ
午後カリ正午付、御義理→行幸車入ス
金子ノ御見入→御元
おこげトニ大作用事請、トソ夕方風
三八

八月

19.(木)

此日退山來、口記、退メトス
午前十時、飯石御清次丸車行退山等
是次御史カリの東ニ近来振付中央産業組合
会、方一花事、旨ナリ既、此時ノ次ス今度
八重井城ノ御母堂、エ会ヘル趣ナリ半時
向計リテ御用外神戸→阪九ル午後五時、吹
笛來、午後、佐々木達北時半退行キハ
四年、計ナリト

20.(金)

四毛附上→行幸車入
吉井→現ル

八 月

21. (土)

行天神の間で、署中体調は良好。朝九時退室
可又高田史の妻の末川林中へ向西へ。高津史の
娘が中二歳ほど遅れ、高津のアリを叫んで、走り
角と未川の娘とお抱き合ひ、娘は手袋
212

高田史と相談して、高田史から河江史、意中より
心に依頼。図書室以外は、他の部屋で勉強。213
他と史、空の人の心で想ひの史、日々進歩
向前。高草季枝=皆川義章、上邊町方面に向
け得策。214 史先へ進歩。215
元時過退所の木室の買物。216 夕尾
街へ帰る。

高田史 息子の河江史

一部、耳疾令状、高山寺医師の二種未定。要
217 218

八 月

22. (日)

7時半上り。北村十郎、甲村二人此の子在中。219
今朝高田史の妻の末川林中へ向西へ。220
高田史の夫久保院助史、刑事八斗、221 駒井一
顕主、222 駒井善一、223 お嬢人、224 意外な事
225

午後 2:06 佐吉駅、矢車へ。高田史機関車及轎
馬車に連れて、金水へ行。金水へ流れるキート
牛の駆け足等、金水の電車、御所へ曳引
高須道、226 車輪車。227 228 229 230 231
8:02 川高橋、矢車へ帰る。

大塚洋二郎の名産桃の道、故川山
谷走り所。一部、高田史又示内中へ会う
美味。232

八月

23.(月)

おひこ便り 駅務課へ手紙へ
原田史郎 大改定を承うる旨を書いた
2時遅めに一通、夕方、以て返却の件。
午後5時位お詫びの電話へ向う詰り一回見
送り

24.(火)

前九時半支那

駅務課へ手紙

原田史郎 金枝、山川の両社へ静善、日本支那
化粧化粧品会社へ花菱氏改定書留め、請義へ手紙
+手紙会合へ土曜、(月)21日
午二時、営業上部へ原田史郎、手紙会合、10時
正午まで相談又、(月)22日、原田上付
御内達へ注意又

元四時過退斗所至

越智史郎 Webb 論文、新序文へ
同史担当、(月)23日又全部、動植物園へ一通

八月

又吉史郎へ Webb の史籍の序文等へ回書等、
記載へ見送り

25.(水)

午後、20時半、トヨタ=103件年賀、日本支那
高社へ送り、成田山之高、在青松へ行飛行一句
見送り
正午段直良改定手紙へ向う詰り、以
降去り

26.(木)

午前正午待へ薩摩直臣、至り、(月)25日
午後半時、
午時過、午前、(月)26日、行手興隆院門又送へ
秋葉一時、(月)27日、(月)28日、(月)29日
置物等へ引取られ又

八月

27. (金)

Wubb 次へ

大島義信史川田江義軒会坐引行計画決定
報せられ中、今後備地主は地主、役員の史
一歩先づく意義は是れを要請して旨返事又

28. (土)

前九時過去所

大蔵府施外事課長=電達にテ既に、日本公
使、今後問題、予て離島外務省一通以入故此
件、下付、都合トハレニシト、内蔵史、
方、ヨリ西國諸カ人吉原カリ依テ改メテ委託
一ノ若ニ露子ノ入札又ナム人ソーラ止ナム
ヨリ公使合ハルベリ甲子年九月、佐野二八
旨申セヤ

吉田史及森川史と記: 七月四日江戸八月既、
解説中心成る方針、向史、意向ナシトハレ
便立ナリハ、吉田史の口人: 送付ナス、
伝心外結果、翌月四日、奉書、不見文化旨返事

八月

外報ナリ他、此度月度二回増心計内川在野
ナリ四、五至八月、一歩上退職手替四、月半ナ上り
内規ナシ海防費取扱、理由、内特ニ七、月合ナシル
ナシ心、中人、中心改々高士全般、令人か、追ノ月
支那アラモ人、幼毛刈ナス、英人、口人全
月、十、月不見双級神功ナシ、吾中古沙平半
儀ニ申今二月、二行神功ニルナス。

午前十一時、坂上輪轂森史來訪、方倍報音
今既事今八月上草人、加半叔全、意向、經
九郎、重慶、井深方面、一七、二、三、差控二八
方可ナリ東京ニ合致、行八分半、土地示
呈、室又トソーキー送來、方倍半枝、觀
查ニシテ八、九、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、
事の追任ナシ、是後半月半是ナリ、宣威
ノ候ス。

元一時半、吉田史方、西本産地、久而向大林、
諸史古事重要議事ナシ、四五、易代報告ナシニ
時向計、ニシテ故合

此度史川、ナシ五時以半時、報入、輪轂森史
ナシ、吉田史、之更上報讀心失、待、向史半、一
次、以吉田史加半人、テ室屋行、ナシ食レ
八時過合法御乞ス

八月

29.(日)

午前十一時、吹越吉道順史夫東来訪 大梅毛
和也高寺中示事叶井大野行之宣会、以尔
時還辞去

松本貢治史東訪 大梅毛、桂生久保至
以又高敷子樹川上山口夕辰役辞去

×朝神下弓取見、至川根越行之、松下山口
一立寄り酒見

30.(月)

午九時還大波一矢弓二枝一弓 + 田部毛
正弘トハラ又曾山メはんサチ一箭、歸心紀、
向山口行之酒見

+ 桂人、山口弓山メ大梅毛の書物見

通つ

トマーノ修復之來到着

八月

31.(火)

午前示内中、拂曉一時、大梅毛拂曉又
十時、復召、午

午元喜子行連、佐吉、寅、海ノ瀬ノ
在四時、吹鐘田大郎史來訪、尚勢紀会
、午十時又五時半辭去

説利川四郎史一下村玄史、生乃妻貞氏
内講、入母子山口、毛矢今、入日十五、元日
、吹弓カニキモニ申之送入

九月

1. (水)

既口在毛改内持毛スモ書物、整理心又
人ノ、事務的整理、商討
則正ニシテ國部夫人計上通証セム

2. (木)

前入時立所
府廳外事課、内閣文庫、半日立所執事下付
運送ルル事、内閣内有史の内侍又
レバ内史一元
越古支、往去函字付現地費ヲ支拂心又底貨
外委送入販代手、大段往去向本車送、是拂
ムニ往心内史、草儀ノ得

厚生史、河而立一部史著書を收、增加心又
人社、印税計算付便ニテ、海外化
進捗、一部トシニテ四田、引支方、税又

協調会、志田義史、況今心内局書款、山
本福次史未計改束、方動統計書物付送
ス

高田史計又会計付厚生史の意次、成才付

九月

立川トシ、又河口史解説手写、麥坐事校、
鹿原校長=報付(外支派)
午前山村焉史來訪 Wolff、校長=中佐丸又時
造セム

高田史厚生史上会計制度付相談又
是ア厚生史の現在、中佐丸又時説明スルハニテ
協議セバ、將軍支拂ハ一八付掌、精大スルナ
ヒ之、ヨリ二十四行ヨリ、支拂ハ厚生史(厚生史
ハ別)、スル支拂コトソーハ、支拂ハ高田
史、並認得ラスル足利方針ハ厚生史、
此ハ支拂、方付合叶接連、付掌ハ立川トシ
接連ハ許ト史ハ毎月始ルト付スル之又、又
保有エテ重要書類月履承付シ保有
味心内一部發行車輿國領、持印付
セム、又口人社計会計、明了カニ付セ
厚生史の大臣史、中心逐ハス
蓬田七郎史未可易書同是資料利用、印
立川、又昭和三七便立トハヤラ高田厚
生史、依頼付

新規資料類接連ス

以有史の開上良二史示庭他漢子四隅、
板、付、内史支拂方(御令紙)立退キ開上史)

九月

過勤勤トスル、方針トドリ、過度の史、侵攻トス
元主等過度の歴史事件退院室ヒル、今井
嘉吉史事務所へ行、般通耕史已・在、今井史、
報加清宣社医室へ夕辰ノ七時之際中山太陽
室、云々小川政治經濟室主会議、般史七時
半ノ二時向、亞、支那政治界、近畿、洋連
九、等都心ノ政治會議、近畿ノ開會
ソノ帶、大江橋畔、ヒーリ・モル、御二会堂十數
名相談不吉田賢一史、全改、找ト心送別、付、
次会議、令ノ年八十日大限、又心主得ハシ
ハ十一日神戸、南カロリ、今人最初大漢、碑
ヒルノ十日、才ハリ、主トカハ、得カトナハ
一切、朝事吉田吉野、史及海史、一之
スルトス、又森久史、立大事件完結、
以思想、自由、為スル「フローラス」、以之
經済室会議、主会議ト加ヘリハト、是後アリ
全整成ノ体導一至文、不可決スカツ
+一等敷会議瓦ス

九月

3. (全)

朝神戸へ行 ^た Cork 社 ^レ 上海馬耳潭
向一等二等 ^{① 924} 特 ²⁹ 一等及神戸青島向一等
二等 @ yen 69 , 代々支拂荷計 向 ^レ 青島此
空向 , 車切符手注文 ^レ 亂知委託函
件二才) リーフ大役、タケケル 買物 ^レ 事
内訳

上林志 ~ Webb, Preface & Introduction
臺灣原生植物

九月

4.(土)

先日左元勅務處手文
元主等遣故吉史妻車手川首物へ此日到着早速
大坂毛一室内又荷物3通ヒ少辰毛の傍シ
荷着ル

小林丸 Wabb, Chapter 6-13 及 Appendix, ^五ア
是道 二

5. (日)

先日左元口記3通又其他勅務處手文
朝越吉史入城に付一通 大坂毛一室、名
儀一ノ九ノ用才中込ル
故工丸主付宣食、以所手

九月

6.(日)

朝方毛妻卜向達手元十時大坂府外事軍一
行、内藤四郎史ニ手取ル、身代金リハシム。又
入江市手ノ行旅行支共ニ通手元威人又一出
毛主内、故入印此ノ時付心引手足袋にて把持ス、
内藤史、先其ハトモナニ一の史、正副、將軍行
手下付毛主付意次付ヒ外瑞有一對の前中連
手足袋之ル、カタハ一時、吹足也
大坂高船ニハシム内、美田久之事致一通手壹袋
又ノ

次、二越入到宣食、以置物3通ヒ神社
一通手置物ナハニ元時、吹足也

御内向御行手ノ倉敷手付よ東云上、相手取
川手ノ事又性傳中坊一七度、手エハ枝
ナ替ニ二人、十六八付ヒ半ル中ハ吹矢ナハル

旅行支共ニ美経、提携アハラ年キ一時後、
奇楚ナハル共、矣止、手ナリ

九月

7.(火)

前九時去而

高田丸ト今叶、桂吉行ナトハナキ合々事中史
成事ノ件ハナラズ

林事史、又今先利持先、内志社卒学生八木
信之史事行而此既ル、すかハナキ合ト當時
の件事ナム、或ハ其ハナキ合トス、成事事中史
一往次ニシテ、先、行及上、便意ハ取ナフヘト
有ハタヤ往ニシテ

仁一時事合々高田森代大林四ツ久面向
、皆史ヲ帶、

久向史、到着雖達資料起、撫定手引ナ
及購入又ハ寄鳴、雖達一資料起、叶當方
味之比鳴又ハナス

今叶度達行、桂吉行、けり、今及高田史、互
在心葉、ナス

支地一二三合ヒ地重付ヒ而時時取合
有ナリ、足斗四点

事中史ハ津山扶助根付、ハナリ、内史ハ行
退アリト、ハナリ、今度根付高田史、根付五件ヒ
有ナス

九月

8.(水)

朝ニ城ニ立候、鹿至丸一札、内志事ノ件ハ木大
人等事中史

瑞芳又ト高畠数、並ヒキス、之ハ城事中史、
林、毛一ゆき、皆、

山田史、ロカフ借リ新交役數、整行ナス

内志史、御守ノ役、設立等付、けんはナ
心葉、行ス、又外務省小林吹一史、之共に
内志史、核合、ハベリ早ク下けナルヤう記念、未く
清賈半行、以テ有即人ハ支計、數字、整フ

仁二時事中改行、御事行、音食会同代
事中、以海河野山村、赤瀬御迎山久、皆史
行、升上主事ヲ帶、

升上史、御種類執事、以御行、御ル

十月四日、事行、御置中ハハ特、ロ寺方(高瀬)、
翌、金口令館、使同備入、中込ナテハ
便、立、上ルナス

十日开事、高瀬御行、十四賀星、次
其吸即人、事行、独立、合計、空、ナヒ、
其役物、ハハ特別、毛合、行、行ハルト、森
内史土、往スラトス

ノ、ハ、今、送別、今、ヨリ、欲、庚、十時半、敷、
行ス

九月

9.(木)

先日左近河上郡史、佐今内政研究会
事務局等史、方御村季行会、福川八人
人内政会、高木三喜久

夕久西向史夫事方御会

10.(金)

朝八時、坂山又義鶴史來訪、昭光寺某、
大内元九郎三喜一、十二等辞去会

謝意、岸本、十

午四時半、岸本、大内、行方、六時江高
内、食室、至八政院政經季今、送別
会、十二等名古屋河上夫太郎史、送別
、行方、岸本、岸本、走

大時大朝講演場、河上、政經季今
講演会、高木、七郎、阿部家、盛會
入門、岸本、岸本、了
去四堂一史、河上、岸本、岸本
人内政会、解説集、宣、一芳亭

九月

付十七等二十二時、マテ過、大内、岸本
蓬山流史、中津、森代、男史、十
森人史、賀茂、全人、河野、密史、内道
場、太朝、社前、大内、アキル、猿、社、氣
忍社の人、故民、河上、郡史、岸本、十
又臺裏便の不快、急、抱、人、既、德、也
也、獲、私、才、行、計、全人、大内、提、解、也
八、達、心、接、岸、史、土、向、已、アキル
、岸、河、地、史、車、幸、行、乃、至、捷、實
、社、大、政、研、會、行、十、奇、慶、要、二
、五、二、七、見、過、十、十一、等、分、块
、四、三

九月

11. (土)

前十一等、後十四等

高田史十郎、喜沖史の提案、会計事務室
に改めて、筆頭又へて、
大改営房高倉、久保鉄兵衛、而後此、久
試験心の復讐又へて、又之種+心力立川
筆頭又

宮西社今度幸運仰東乃史半治梅原
氏、歸(ひき)りが生(い)る、一の幸度=呂スル
許解(けつげん)全、吉田江里、意向(おも)
若(わ)か)

久一等事務会、高田喜沖机高車川内
藤(とう)井、藤(とう)井、若(わ)か

委(まか)す、八九月委(まか)す義事、教(くわう)
江(え)史歸(きか)る、事(こと)文(ぶん)旨(し)是(ぜ)故(ゆゑ)特(とく)
手(て)入(い)る、外(ほか)に理由(ゆうりゆ)

先(さき)部(ぶ)、内(うち)支(し)八(はち)月(げつ)記(き)入(い)れ(れ)カ(カ)ト(ト)高(たか)了(りよう)
想(おも)う

会計事務、竹(たけ)規(き)程(てい)、主(しゆ)旨(しゆ)勤(こな)行(こう)、常(じょう)
理(り)

少(すくな)い時(とき)過(すぎ)度(ど)

高(たか)四(よん)等(とう)半(はん)過(すぎ)度(ど)大(だい)改(かい)行(こう)、十一等(とう)

九月

送別会(送別会)、飯島玄島、四(よん)地(じ)十(じゆ)計(けい)
支(し)持(もち)欲(のぞ)く、莫(ま)一(い)八(は)時(じ)半(はん)故(ゆゑ)氣(き)又(また)

12. (日)

午前、峰嶺史太郎、早(はや)めに来(くわ)ら、東
京(とうきょう)、内(うち)連(つづ)き、一(い)朝(あさ)、表(あわ)せ心(こころ)意(い)
思(おも)ふ事(こと)

同(どう)道(どう)事(こと)十(じゆ)二(にじ)、高(たか)取(とり)→分(ぶん)枝(し)
木(き)、蓬(ぽう)高(たか)通(とお)、毛(け)、山(さん)下(げ)之(の)二(に)中(なか)故(ゆゑ)、才(さい)
才(さい)人(じん)人(じん)外(ほか)礼(れい)、達(たつ)、昇(のぼ)る、一(い)事(こと)、叶(かな)う
事(こと)、才(さい)事(こと)、内(うち)見(み)る、全(ぜん)以(い)上(じょう)大(だい)改(かい)

行(ゆき)、即(そく)ち、年(とし)、送(おくり)、筆(ひ)十(じゆ)計(けい)把(ぱ)持(もち)
送(おくり)、送(おくり)、高(たか)須(す)志(し)、四(よん)条(じょう)高(たか)車(くるま)、
行(ゆき)、行(ゆき)、高(たか)車(くるま)、高(たか)車(くるま)、行(ゆき)、
氣(き)、口(くち)利(り)、足(あし)、致(むすび)、文(ふみ)一(い)九(く)時(じ)半(はん)過(すぎ)度(ど)
比(ひ)、機(き)会(き)、利(り)用(よう)心(こころ)全(ぜん)、大(だい)改(かい)、全(ぜん)改(かい)
整(せい)、宣(せん)所(しょ)、特(とく)別(べつ)、配(はい)置(ち)、アリタレコト、ナハ、四(よん)
開(あらわ)く事(こと)、四(よん)朝(あさ)、場(ば)合(あ)う、一(い)四(よん)位(位)心(こころ)
配(はい)置(ち)、ヤニ計(けい)アハ、高(たか)度(ど)、達(たつ)、昇(のぼ)る、御(ご)手(て)、御(ご)手(て)

九 11

13. (月)

朝九時、飯食四件 火水種火ニテテモ要物
ナシ後上車 午五時、~~山~~廻山取着車、
内山下 横馬場、石井熊太史 3行 未外
食數四件 一夫人、而後十時八
時半去

大久保施助史毛 3行 夫人、而後 駄向
最段、原田太郎文史毛 3行、夕食、
地主、十時過御去

再~~山~~廻山取、至~~山~~上車 食數二萬人力
→ 原田史毛、行、口史在江野八
八時 駄向、十時過御去

九 12

14. (火)

朝原田史毛、火水火ニテテモ要物
一早岐史更地、所瓦良右衛門行、次、中央
病院、石井氏行子、食才左近、林史
十時後、廢門治史毛不在、大原壁
二郎毛毛、夫人及原氏、火毛、農革行
毛行、近藤家太郎史毛不在、以草毛向
去、最段、宇野和一郎文史毛行、
又上母上井、傳一夫夫妻、佐大志
夫妻、旅中病氣、不在、立辰、松舞
二郎毛

カタ^{12.4.9} ~~山~~廻山食數方面、吸乞接物、
火~~山~~、下車、宇野文上至田史、次道江
食數本榮、夕六時、吸~~山~~毛又
夕駄引方、處理又

九月

15. (火)

午十時退去西

二午食堂→全及内蔵史、夕食所)退
別室→富田史(未)森人史(高田史
病氣欠席、夕)、植物全及内蔵史、善
行地人就待心二時退故去

五時退(到)吹四郎史來所打氣(+)
六四時前自歸事以文書今致、行々四
壁方動帰気生内委負金尋合(メア)
四時半在四室足而後川井四史、(到)
史及全及内委負金、司+工革、(此
以方動時向制限、至之使後事、川
協議心化正試(

五時、吹毛合(司+化正空叶)協議
之決之

全、子左中下井宏史、委負金外叶
、手取不得

七時福島猪太郎若竹要次郎二氏、(此
朝欲退今又年、退別室(ア)植物、變碗
、以就待九時故去西)

河上常史左足去八十一吹七人(人)去
→内蔵史一全、(到)持氣吊向(ルルカナ)

九月

16. (木)

午前車下史支妻来訪

十時、吹毛合大改=考(ア)美一丸、3分
八時(ア)年会自歸事内→木南史(今)、(ア)史
上車中、(ア)川井四史、(ア)利子報(オ)
食坊支社=テテ(ア)柿原得一史(四食中、山→草
代(ア)高(ア)、意味ト改ム、(ア)川井工場(ア)
貿易便益算計(ト)計(オ)
麦空屋(ア)至(ア)富田史、又(ア)至(ア)柿原得一史
乞(ア)
行毛糸(ア)至(ア)失(ア)一(ア)糸(ア)
吹(ア)田邊町=加川喜之史、(ア)山名史
二利子(ア)一(ア)会(ア)候(ア)等(ア)請(ア)
吹(ア)ノ屋(ア)氣(ア)又(ア)高(ア)林史、(ア)行(ア)又(ア)少
(ア)大改社(ア)氣(ア)主(ア)合(ア)等(ア)一(ア)史(ア)
故(ア)中止(ア)

九月

17.(金)

朝来量八兩在毛の芳送、小代事 与元故高文
半儿通知狀へ現上貢、以在史ニ至草ノ事、
弓物3種+貢)

与五兩、保二行甲南高女ニ信授要、才ヒヤウ
莫以、ナリル先に又四等兩、情心ニ及ヒ詔旨
以草史ニ市奉城大寺落御尊3分ヒ正、ナガ
ナヒ、

草既走、唯ニナニ御人ニモハシ、行
辛土ノ贈ニ七時足四瓦

完島四男夫主事、半時向計、ハシ
ナリ

入江おひやー半引

九月

18.(土)

朝来内侍山岸吉次郎氏、行ヒ唯乞
多守乞、叶未ヒナ、喜ヒハ草苑城三市ニ此行
ヒ、余ハ清示、玉軒ヘ唯乞ス

小山芳子夫人、因田主近史夫人、松田翁
ニ即史來訪

与元持田持田北北太島士莊、主史半引
乍上章、找ヒ失ヒハタヒテアヒタヒ
ナリ却ヒ乞前ニ不堪、談笑時、余辞乞ル
ソラ宇野私一郎夫人本乞、又厚
田母堂、厚田昌平史内侍本乞

追ナセ二人ヲサマノ一人ニ一乞
出ナシ、波ヒ特ニウリハナニ進ヒテナリ
波ヒオト、多守中、心ニ得ヒテヒオ、又ウ
リハ辛豆以御戸セ季院高土耕一丁人
在蓬松井、独乙語ニ達ヒヤラスヒ
ハヒオト、正ヒ甲南高女、入ヒテ
ナハキ、立フ

萬守中、事柄、荷物、整ひ土ハ乞
事ニ前ヒ時半、至リ既ヒ一オツ沐
山林夫一郎の御枝、御糞、一部ヒテ向日
ナハキ、シ達ヒ

九月

19. (日)

一睡向^{アマシ}→ 上時祝休 一同朝食以
母上及亞田夫婦一同宿中、下諾矣(はれい)
矣

詔高史以有史、又ノレル(ホリス)
原田史の言也先人、注意、ヨリ母上弟一
端公、處置了向^{アマシ}え、身^ヒ向^{アマシ}合^ハ中^シ
田朝^{アマシ}笑^{ハラハラ}十、宿中可笑^{ハラハラ}所^{トコ}
タヒト^{タヒト}矣^{タヒト}

○ カク八時母上=明治元年8月20日
→ 佐吉駅、荒山号、去次郎氏夫妻送^{ハル}
之、亥歎、下車、予地先人至田母上^ミ
田夫婦、小姓二人以左故^モニ史ト芝、
自御車以次止境、行^{ハシ}奉^{ハシ}山の^{ハシ}上^{ハシ}
足道、先往意外^{ハシ}數感^{ハシ}計^{ハシ}至^{ハシ}カク
十一時解^{ハシ}脫^{ハシ}、ノ^{ハシ}オ^{ハシ}同^{ハシ}改^{ハシ}、
上^{ハシ}







